

[専門教育科目/看護の展開/精神看護学]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神看護学実習	NSP34_007	必修	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
石野 徳子 他	415	t.ishino	学内日 14:30~17:00		
授業の目的・概要	精神に機能障害をもち、入院治療を受けている人と地域で生活している人に必要な看護の実践について学び、精神看護の実践が行える基礎的知識・技術・倫理的態度を修得することを目的とする。概要として、提示した事例を通し精神機能に障害をもつ人の発達状況・家族歴、病気発症などの理解を深めた上で、一連の看護過程を展開する。また、精神障害者が地域で生活を送るための、地域生活支援の理解、SST の実際の理解、精神科における他職種との連携やチーム医療の意義および看護の役割を学ぶ。授業は学内実習および同時双方向による遠隔授業で行う。				
学習上の助言	精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱで習得した知識を踏まえて、精神看護対象者のニーズを見出すために、各人の感性を活かして人間関係を形成することが援助への第一歩となる。				
教科書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎/著:武井麻子/医学書院/2020 第5版 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開/著:武井麻子/医学書院/2020 第5版 [2冊指定]				
参考書	・パーフェクト臨床実習ガイド精神看護第2班/編:宣間真美/照林社/2015 ・看護学生のための精神看護実習 NOTE/監:日本精神科看護技術協会/中央法規出版/2016				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	精神看護対象者と信頼関係を形成し、対象者独自の感情、思考、ストレス対処規制、不安、健康問題を理解できる。	NS(1)(2)(3)			
②	実習を通して自分の精神看護に対する自己の見方考え方を明確にできる。	NS(1)~(4)			
③	提示された事例の看護過程を展開することができる。	NS(1)~(4)			
④	精神科医療における治療法及び社会復帰活動についての援助の方法を理解できる。	NS(5)			
⑤	精神科病院・病棟の環境や管理の方法と治療・看護の関連を学ぶことができる。	NS(1)~(5)			
⑥	対象者を支援する様々な精神科専門職種との関連、看護職の役割と機能を理解できる。	NS(5)			
授業計画					
1.実習時期:3年次後期 2単位 2.実習期間:2週間 令和3年10月~令和4年3月 3.実習場所:学内実習 1グループは6~7人で編成する。 4.実習内容 ・学内実習とし、対面授業とオンライン (Teams を活用) による講義・演習を行う。 ・DVD 及び撮影動画の活用 ①精神科看護・精神科病棟の理解の動画視聴、②精神科病棟での実習イメージ作り、③地域生活支援、④当事者の理解、⑤SST (社会生活技能訓練)、⑥他職種の理解・看護過程の展開については、自己学習後、グループワークを行う。 5.実習スケジュール					
	方法	午前	午後		
月	遠隔	【講義】 オリエンテーション DVD(精神看護実習)視聴(精神科実習イメージ作り)	【講義】 DVD(精神看護実習)に関する質疑・意見交換 レポート作成		
火	遠隔	【講義】 精神科看護・精神科病棟の理解の動画視聴(実習協力病院) レポート作成	【講義・演習】 看護過程事例の紹介 アセスメント方法の説明		
水	am 対面	【演習】 看護過程の展開 【講義】 情報整理の方法	【講義・演習】 看護過程の展開 個人自己学習 看護問題抽出		
木	pm 対面	【講義・演習】 看護過程の展開 個人自己学習 問題点抽出・具体策立案	【演習】 看護過程の展開 GW 問題点抽出・具体策立案 4Gに分れGW		
金	am 対面	【演習】 看護過程の展開 GW・発表 具体策他4Gで 全体発表1G20分まとめ	【講義・演習】 看護過程の展開 個人自己学習 一連の看護過程関連の記録の整理		
月	遠隔	【講義】 地域生活支援の理解 DVD 視聴(病院から地域社会へ)意見交換	【講義】 退院に関する諸施策について レポート作成		
火	遠隔	【講義】 色んな当事者の理解 DVD 視聴(当事者参加授業) 意見交換	【講義】 社会復帰関連施設の理解 動画視聴(退院支援)レポート作成		
水	対面	1・2G【演習】 SSTについて DVD 視聴・演習 3・4G 自己学習 プロセスレコードの記載	3・4G【演習】 SSTについて DVD 視聴・演習 1・2G 自己学習 プロセスレコードの記載		
木	遠隔	【講義】 他職種の理解 動画視聴(実習協力病院の OT・PSW・CP 他)	【講義】 他職種協働の必要性について レポート作成		
金	対面	【演習】 学びのレポート全体発表・個別面接(3・4G) (1・2G は記録の整理)	【演習】 学びのレポート全体発表・個別面接(1・2G) (3・4G は記録の整理)		

[専門教育科目/看護の展開/精神看護学]

学習課題・学習時間 (時間)							
精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの復習をし、実習要項を読み込んでおくこと。							
必要時間: 6.0							
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	65	15	0	20	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	15	5	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	10	0	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	10	15
	コミュニケーション力	0	0	5	0	10	15
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
問題を発見・解決する力		0	10	0	0	0	10
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	実習記録、課題レポート、最終レポートなどの内容について、担当教員間の意見を参考にして評価する。				実習記録などについてコメントを伝える。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①		学生が自己の学びについて自身の考えをまとめて他者に伝えることができる。				グループ間でのカンファレンス時、口頭で伝える。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	看護過程展開の記録、実習に取り組む姿勢・意欲・協調性等を総合的に判断する。 学生が達成すべき行動目標①~⑥について自己評価を行い、実習最終日に実習指導教員と面接を実施する。				実習最終日の面接で総合的な評価を行い、学生が今後の課題を見出せるようにする
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備考							
担当教員: ◎石野 徳子、森川 三郎							
<ul style="list-style-type: none"> 担当教員は臨床現場および教員として長い経験に基づいた指導をします。特に、組織におけるチーム医療の中の看護職の役割を理解すると共に、座学での学びと臨床現場における知識の統合の修得を目指します。 人と関わるためにはエネルギーが必要です。まず自分自身の心身の状態を自己管理して整え、自分の持ち味を活かして日々の実習に臨んで下さい。 Teams を使用した同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量の安定した Wifi 環境を推奨します。 大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業に参加を認めません。 今後、新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。 							